

4 慢性前立腺炎/慢性骨盤痛症候群の 諸症状に対する清心蓮子飲の有効性 および安全性の検討

川西市立総合医療センター 泌尿器科

貝塚 洋平、吉岡 慎平、長澤 誠司、東郷 容和

【背景と目的】慢性前立腺炎は米国国立衛生研究所(NIH)分類により細菌性(カテゴリーⅡ、慢性細菌性前立腺炎)と非細菌性(カテゴリーⅢ、慢性前立腺炎/慢性骨盤痛症候群、以下CP/CPPS)に分類される。CP/CPPSの治療には消炎鎮痛剤、植物製剤、 $\alpha 1$ ブロッカー、PDE5阻害薬などが用いられるが、治療効果が得られるまでに長い期間を必要とする症例や、また治療が奏効しない症例を経験することがある。今回我々はCP/CPPS症例に対する清心蓮子飲の有用性および安全性を検討することを目的とした。

【対象と方法】対象は2023年11月から2024年10月までの間に川西市立総合医療センター泌尿器科においてCP/CPPSと診断し、清心蓮子飲を投与した8症例である。それぞれの年齢、前立腺体積、残尿量、PSA値を測定し、治療効果判定として慢性前立腺炎症状スコア(NIH-CPSI)を用いてそれぞれの症例の重症度を評価し、投与前及び投与後4週後のスコアを後ろ向きに検討した。NIH-CPSI合計スコアが25%以上の低下もしくは6点以上の低下を有効と定義した。

【結果】症例の年齢は平均61.3歳(47~88歳)、前立腺体積は30.3ml(14~58ml)、残尿量は5.9ml(0~44ml)、PSA値は1.73ng/ml(0.461~5.788ng/ml)であった。CP/CPPSの罹患期間は平均19.4か月(3~50か月)、投与前のNIH-CPSI合計スコアは平均27.3点であった。重症度分類では、症状スコアは軽度(9点以下)1例、中等度(10~18点)4例、重度(19点以上)3例、QOLスコアは中等度(2~4点)4例、重度(5~6点)4例であった。投与後4週目の評価として、NIH-CPSI合計スコア、痛みスコア、排尿スコア、QOLへの影響スコアはそれぞれ平均27.3→21.3点、12.3→8.9点、6.4→5.0点、8.6→7.4点と改善を認めた。有効と判断した症例は4例/8例(50.0%)であった。副作用は1例で胃部の不快感を認めたが、減量にて症状は改善し内服継続できている。

【結論】清心蓮子飲はCP/CPPS症例に対して有効かつ安全な治療薬であると考えられた。